

STEP-UP

令和4年度 第1号9月
大田区立幼児教育センター
幼児教育担当 TEL(5744)1618

蝉の声にぎやかに聞こえていた夏休みも終わり2学期が始まりました。元気な子どもたちの声が教室や園庭に響いています。コロナの終息はいまだ予断を許さない状況が続いていますが、子どもたちの安心安全を考えて気を緩めずに過ごしていきたいと思えます。今号は、第1回幼稚園教諭・保育士合同研修会と2年ぶりに開催された保幼小連携合同研修会についてお伝えします。

第1回 幼稚園教諭・保育士合同研修会 (5月27日 池上会館にて 参加者・90名)

テーマ「子どもの育ちと学びをつなぐ幼児教育と小学校教育の連携」

武蔵野大学教育学部幼児教育学科の箕輪潤子先生をお迎えして行いました。

連携・接続

子どもの育ちや学びの接続を目指して、幼児教育施設と小学校が連携していくことが大事。

幼児教育は、小学校の学習内容の先取りや訓練的な活動ではなく、学習の土台となる必要感に基づいた、直接的な体験を通して考える、分かるということを育てていくことが大切。

スタートカリキュラム

今までの学び、育ちをつないで安心して学校生活を送れるように、入学後の4、5月を目安として小学校の先生が、“スタートカリキュラム”を作り授業を進めている。

- 興味や関心・意欲・好奇心・探究心・工夫・試行錯誤・考える・気付く・話に耳を傾け理解する・思いや考えを言葉で伝える・葛藤と自己調整(折り合いをつける)など。
- 遊びや活動の中で生まれる問い(もっとしりたい)・興味関心や意欲(もっとやりたい)に耳を傾ける。

就学時に伝えたいこと、知りたいことの違い

幼稚園、保育園の先生は、その子の良いところ、育ったところをより伸ばしてほしい。小学校の先生は、これからの学校生活でその子が困難に感じるところを見付けたい。

※お互い話し合うと「なるほど」と見る視点が変わった。お互いの子どもへの思いを伝えあうことが必要。

交流活動

違う施設の連携や交流になるので、管理職や自治体に支えてもらう。学区のグループを生かし、管理職や公立、私立とでやりましょうということが必要。小学校、保育園、幼稚園など校種間全体でつながるだけでなく、先生同士の個人レベルでつながることも大事。また、研修などを通じて一緒に考えつながりを作っていくことが連携につながる。

現在はコロナで

交流は難しいが、一緒に何かするという生活の一部として考える。

例 散歩の途中に近くの小学校の前を通った時に小学校の様子を見たり、授業を見せてもらったり、プール掃除でヤゴをもらいに行くなどの中で交流になったという所もあった。(お互いにとって学びになるようにする)

先生同士の交流

幼稚園、保育園の先生が小学校の授業参観に行かせてもらったり、オンラインの授業を見せてもらったりしたという話があった。小学校の先生も保育士の体験や研修に機会があったら参加することも良い。



走ってるね



ヤゴだよ

研修生の感想

- ・保育の中での遊び、経験が小学校での学習意欲につながっていくことを改めて感じた。
- ・保育園と学校とで子どもの見方の違いが分かった。お互い寄り添い、連携・接続ができるようにしていきたい。
- ・コロナで交流はなかなかできないが、お互い負担にならないように計画を立てていきたい。